

A: Excel のデータを、CSV ファイルとして書き出す。

(このステップは、Excel での操作です)

「名前を付けて保存」コマンドを実行して、ファイル名を入力する画面で、ファイルの種類を CSV(カンマ区切り)を選択して、ファイルを保存します。

詳細は、Excel のマニュアル等を参照してください。

CSV 形式で書き出しできれば、Excel 以外のアプリケーションのデータを利用することも可能です。

B: P-touch Editor のデータベースファイルに、CSV ファイルのデータを取り込む

(ここから、P-touch Editor の操作に変わります)

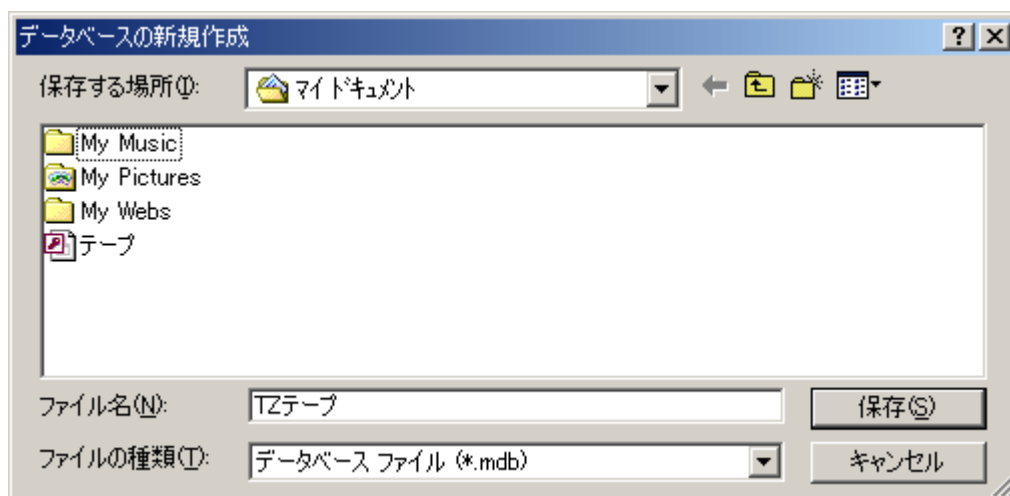
B-1 「ファイル」 - 「新規作成」 - 「データベース (CSV の取り込み)」を実行します。

B-2 「データベースの新規作成」画面が現れます。

データベースファイルの名前を付けて保存します。

(このデータベースに、後で CSV ファイルのデータを取り込みます)

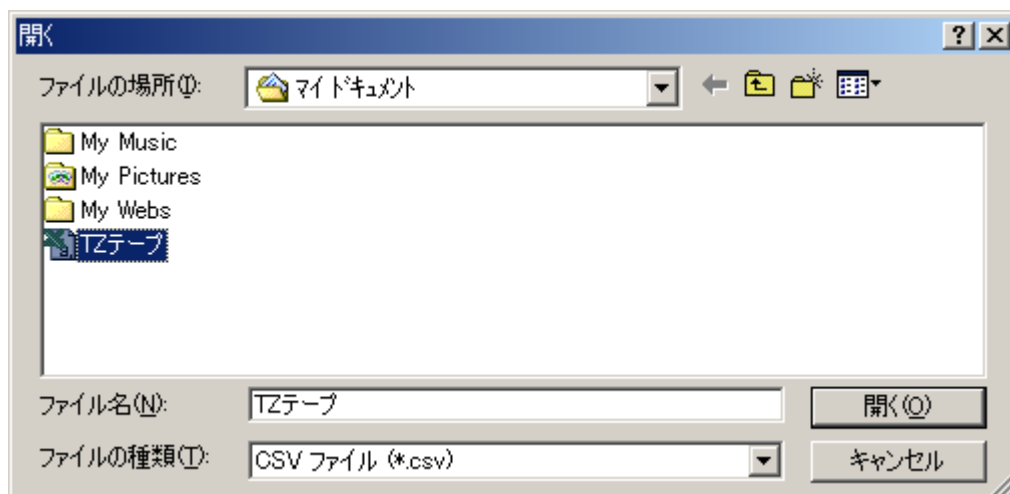
ここでは、「TZ テープ」という名前で、保存します。



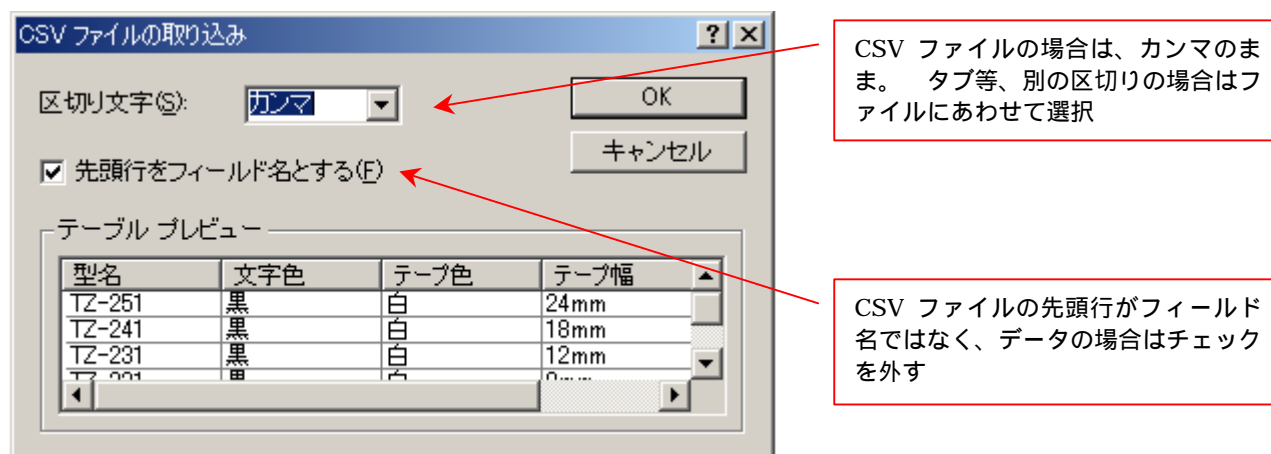
B-3 「開く」 画面が現れます。

(前のステップの同じような画面が現れるので、「あれっ」と思われるかも知れませんが間違いありません。安心して続けてください)

ここでは、Excel で保存した CSV ファイルを指定します。



B-4 CSV ファイルの取り込みオプション画面が現れます。



B-5 P-touch Editor のデータベースに、データが取り込まれ、以下の画面が現れます。

型名	文字色	テープ色	テープ幅	JAN
TZ-251	黒	白	24mm	4977766052672
TZ-241	黒	白	18mm	4977766051958
TZ-231	黒	白	12mm	4977766052061
TZ-221	黒	白	9mm	4977766052252
TZ-211	黒	白	6mm	4977766052375
TZ-131	黒	透明	12mm	4977766052047
TZ-431	黒	赤	13mm	4977766052078
TZ-531	黒	青	14mm	4977766052085
TZ-631	黒	黄緑	15mm	4977766052092
TZ-731	黒	緑	16mm	4977766052108

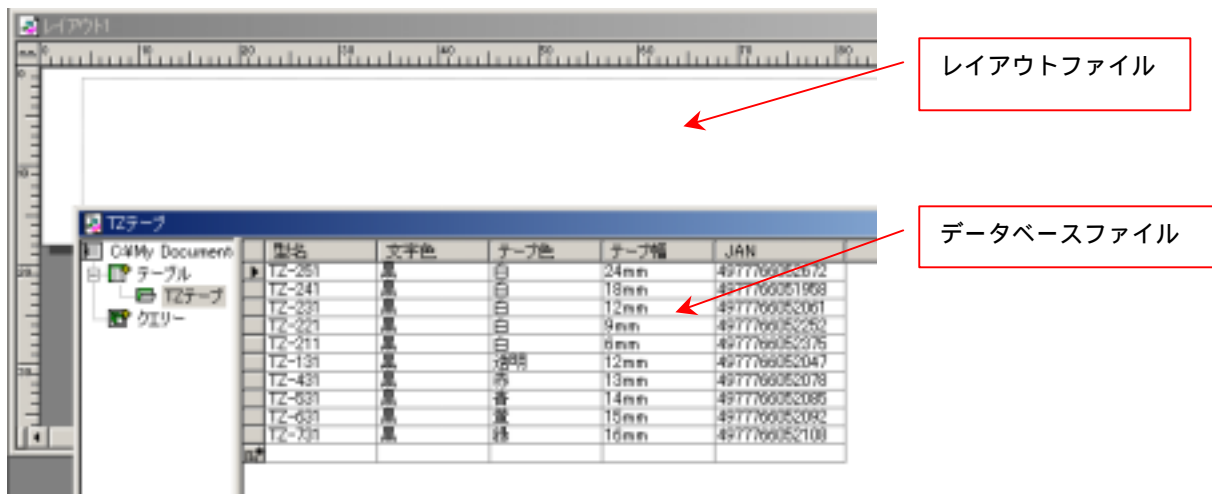
これで、P-touch Editor に、Excel / CSV のデータが取り込まれました。

C: P-touch Editor で、データベースをレイアウトファイルにマージする。

マージという聞き慣れない言葉ですが、一般的には差し込み印刷とも言われている機能です。

C-1 ラベルをレイアウトするファイルが開いていることを確認してください。

(P-touch Editor を起動したときには、新規レイアウトファイルが一つ開いています)



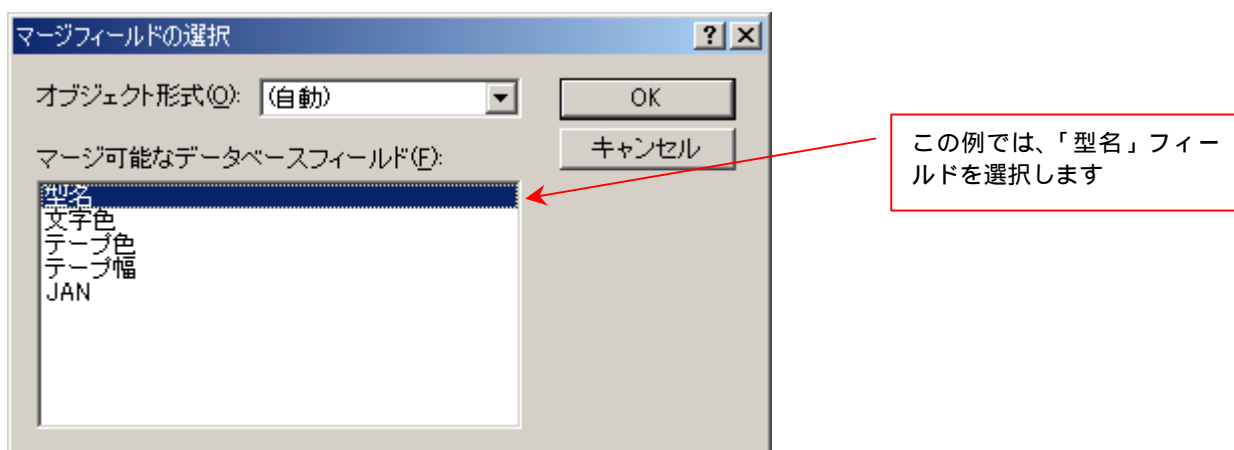
C-2 「ツール」 - 「レイアウトへのマージ」メニューを実行してください。

(データベースファイルが、一番上にないと、「ツール」メニューは表示されません)

その場合は、データベースファイルのどこかを、マウスでクリックして、一番上に持ってきてください)

C-3 「マージフィールドの選択」画面が現れます。

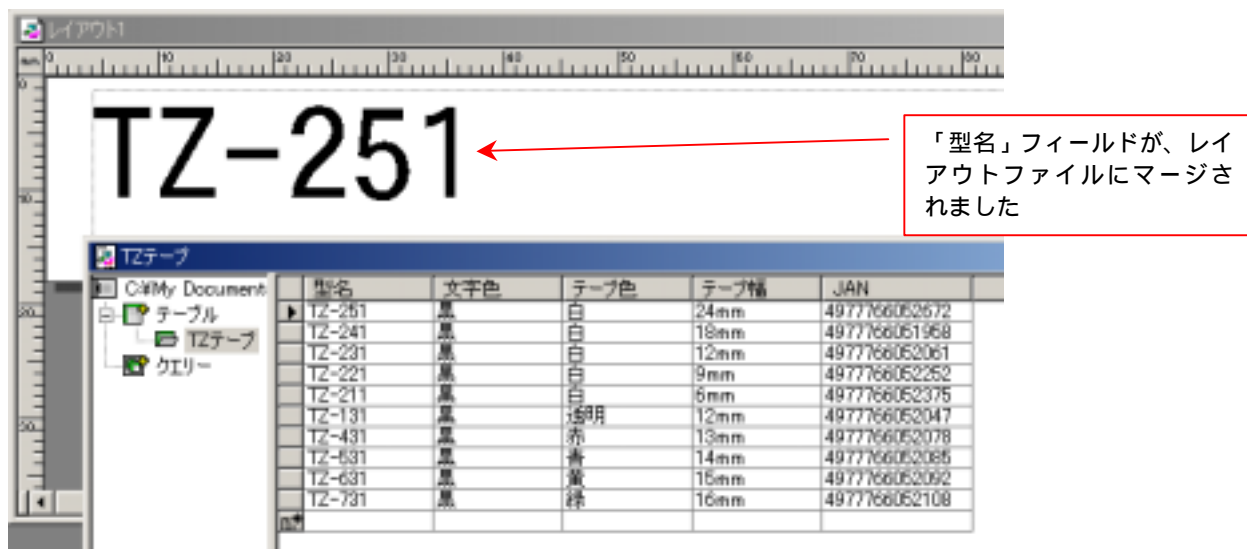
この画面では、レイアウトにマージする「フィールド」を選びます。



一度に、複数フィールド指定することも可能です。

C-4 レイアウトファイルに、「型名」フィールドがマージされ、現在選択されている

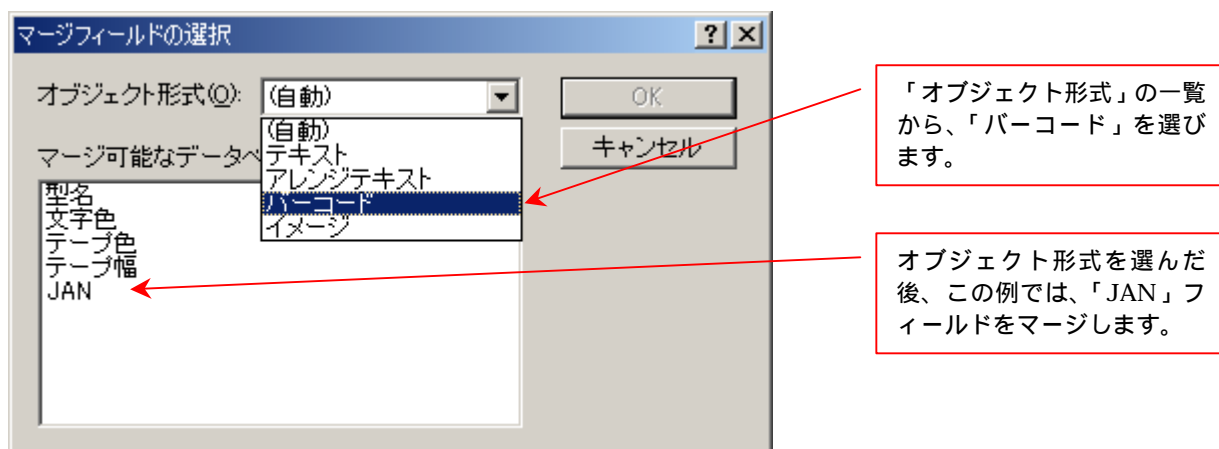
レコードのデータが表示されました。



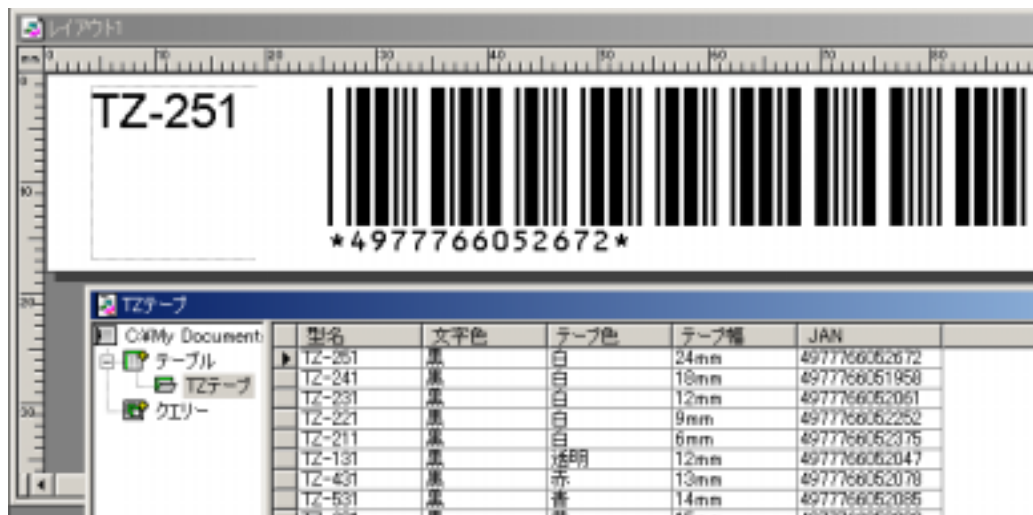
- C-5 マージされたデータは、通常のテキストと同様に、文字サイズ、フォント等の変更ができます。
- C-6 他のフィールドを、マージする必要がある場合は、同じステップを繰り返し行ってください。

D: P-touch Editor で、データベースをバーコードデータとしてマージする。

D-1 「ツール」 - 「レイアウトへのマージ」メニューを実行してください。



D-2 バーコードとして、レイアウトファイルにマージされました。

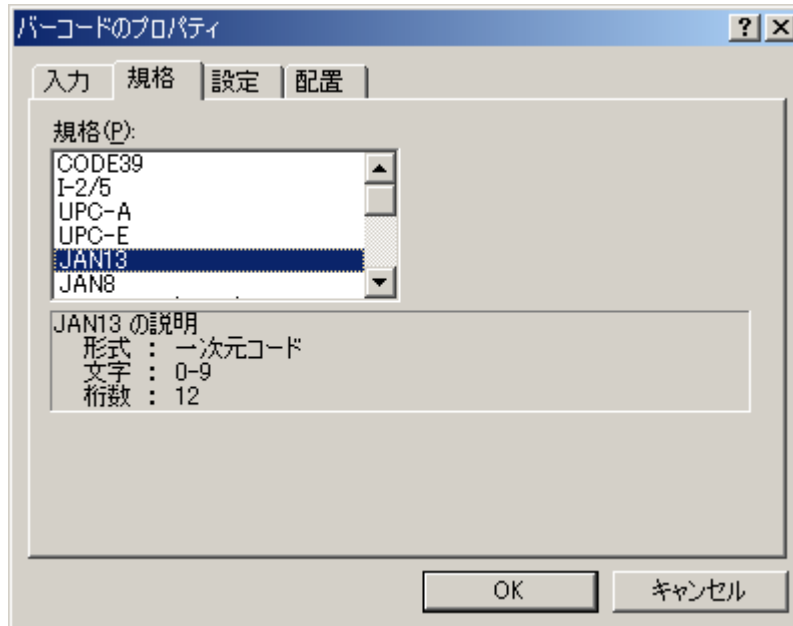


しかし、バーコードの形式が違うようです。

バーコードの規格を、正しく指定してあげる必要があります。

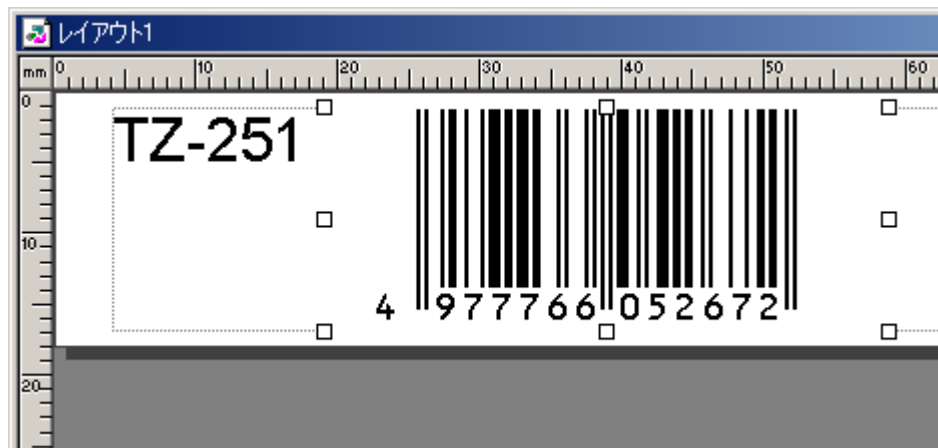
データとバーコード規格が合わないと、バーコードが網がけになり「無効」と表示される場合もあります。この場合も、次以降のステップを同様に行なうことで、バーコードを正しく設定することができます。

D-3 レイアウトファイルで、バーコードをマウスでダブルクリックします。



「規格」タブで、「JAN13」を選びます。

「設定」タブでは、バーコードの横幅などが設定できます。



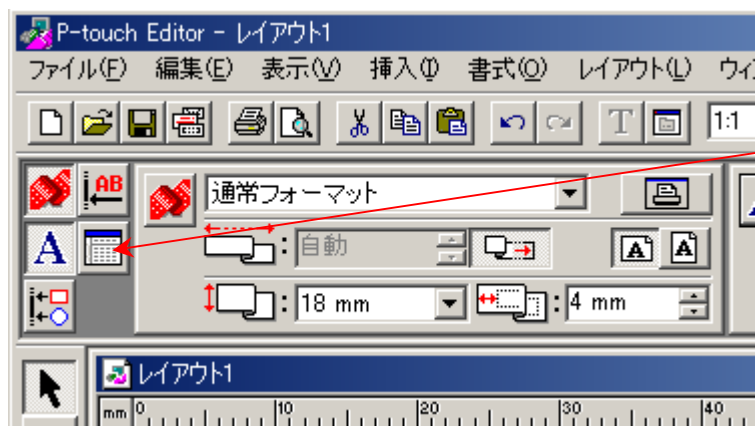
あとは、バーコードの縦方向の大きさを調整して

「型名」フィールドとの位置関係を調整して

レイアウト作業は終わりです。

E: 印刷する。

E-1 印刷する前に、本当に正しくマージされたのか確かめてみましょう。



データベースプロパティ

データベースプロパティ、というボタンを押してみます。

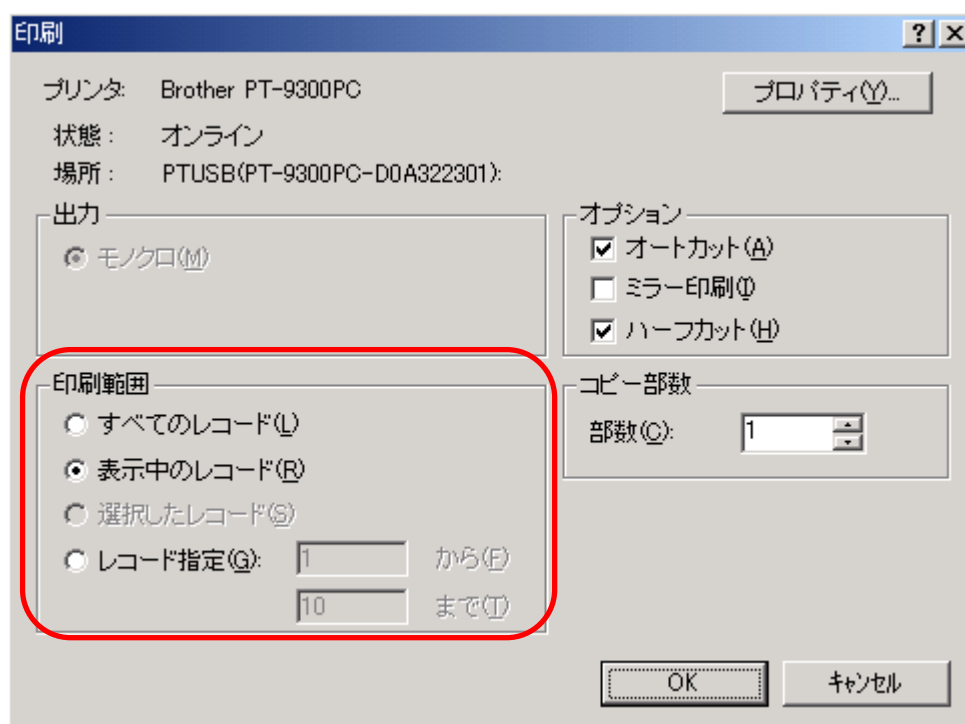


データベースプロパティが表示されます。

この左右の矢印のアイコン（前のレコード、次のレコード）を、クリックしてみてください。レイアウトのデータが、入れ替わっていけば、正しくマージされているということです。

E-2 それでは、印刷してみましょう。

印刷の指令方法はデータベース印刷でも同じです。



しかし、いつもの、「印刷」画面に「印刷範囲」というオプションが追加されています。

- ・表示中のレコード を選択して印刷すると
 現在レイアウトファイルに表示されているレコードのみ印刷します。
- ・すべてのレコード を選択して印刷すると
 その名の通り、すべてのレコードのデータが順々に差し込まれて印刷します。
 データベースが100レコードあれば、100枚ラベルが印刷されます。
- ・レコード指定 を選択すると
 印刷開始レコード番号と、終了レコード番号を指定して印刷できます。
- ・選択したレコード を選択して印刷すると
 データベースファイル側で、検索機能などを使って選択しておいたレコードのみを
 印刷します。

以上です。